

CASNR	名称	主な用途	SPEED' 98 での取扱い	備考
94-75-7	2,4-Dichlorophenoxy acetic acid (2,4-D) 詳細検討対象物質	除草剤	No. 7 ジクロロフェノキシ酢酸	登録
1912-24-9	Atrazine 詳細検討対象物質	除草剤	No. 9 アトラジン	登録
15972-60-8	Alachlor 詳細検討対象物質	除草剤	No. 10 アラクロール	登録
122-34-9	Simazine 詳細検討対象物質	除草剤	No. 11 CAT	登録
115-32-2	Dicofol=Kelthane 詳細検討対象物質	殺ダニ剤	No. 20 ケルセン	登録
115-29-7	Endosulfan 詳細検討対象物質	殺虫剤	No. 24 エントスルファン(ヘンソ [®] エピ [®] ン)	登録
959-98-9	Endosulfan(alpha) 詳細検討対象物質			
33213-65-9	Endosulfan(beta) 詳細検討対象物質			
121-75-5	Malathion 詳細検討対象物質	殺虫剤	No. 27 マラチオン	登録
12427-38-2	Maneb 詳細検討対象物質	殺菌剤	No. 53 マンネブ	登録
12122-67-7	Zineb 詳細検討対象物質	殺菌剤	No. 61 ジネブ	登録
137-30-4	Ziram 詳細検討対象物質	殺菌剤	No. 62 ジラム	登録
61-82-5	Amitrol=Amintriazol 詳細検討対象物質	除草剤、 分散染料、樹脂 硬化剤	No. 8 アミトロール	'75 失効
58-89-9	Gamma-HCH=Lindane 詳細検討対象物質	殺虫剤	No. 12 ヘキサクロシクロヘキサン	'71 失効
56-38-2	Parathion =Parathion(ethyl-) 詳細検討対象物質	殺虫剤	No. 12 エチルパラチオン	'72 失効
12789-03-6	Chlordane	殺虫剤	No. 14 クロルデン	'68 失効
57-74-9	Chlordane (cis- and trans-)			
27304-13-8	Oxychlordane	クロルデンの 代謝物	No. 15 オキシクロルデン	

CASNR	名称	主な用途	SPEED' 98 での取扱い	備考
50-29-3	DDT(Technical) =Clofenotane p,p-DDT=Clofenotane	殺虫剤	No. 18 DDT	'71 失効
3563-45-9	1, 1, 1, 2-Tetrachloro-2, 2-bis(4-chlorophenyl)e thane=Tetrachloro DDT	殺虫剤	No. 18 DDT の関連物質	
309-00-2	Aldrin	殺虫剤	No. 21 アルドリン	'75 失効
60-57-1	Deildrin	殺虫剤	No. 23 デイルドリン	'75 失効
72-20-8	Endrin	殺虫剤	No. 22 エンドリン	'75 失効
76-44-8	Heptachlor	殺虫剤	No. 25 ヘプタクロル	'75 失効
1836-75-5	Nitrofen	除草剤	No. 31 ニトロフェン	'82 失効
50471-44-8	Vinclozolin 詳細検討対象物質	殺菌剤	No. 60 ビンクロゾリン	'98 失効
118-74-1	Hexachlorobenzene (HCB)	殺虫剤、 有機合成 原料	No. 4 ヘキサクロロベンゼン	未登録
2385-85-5	Mirex	殺虫剤	No. 30 マイレックス	未登録
39801-14-4	Photoimirex		No. 30 マイレックスの関連物質	
8001-35-2	Toxaphene=Camphechlor	殺虫剤	No. 32 トキサフェン	未登録
143-50-0	Kepon=Chlordecone	殺虫剤	No. 51 キーポン(クロルテコン)	未登録
10605-21-7	Carbendazim 詳細検討対象物質	殺菌剤		登録(カルベン ダジム)
333-41-5	Diazinon 詳細検討対象物質	殺虫剤		登録(ダイ ジノン)
60-51-5	Dimethoate 詳細検討対象物質	殺虫剤		登録(ジメ トエート)
330-54-1	Diuron 詳細検討対象物質	除草剤		登録(ジウ ロン)
36734-19-7	Iprodione 詳細検討対象物質	殺菌剤		登録(イプロ ジオン)
330-55-2	Linuron=Lorox 詳細検討対象物質	除草剤		登録(リニウ ロン)
137-42-8	Metam natrium =Metham sodium 詳細検討対象物質	殺虫剤		登録(カーハ ムナトリウム)
74-83-9	Methylbromide =Bromomethane 詳細検討対象物質	殺虫剤		登録(臭化 メチル)
67747-09-5	Prochloraz 詳細検討対象物質	殺菌剤		登録(プロク ロラズ)
709-98-8	Propanil 詳細検討対象物質	除草剤		登録(プロ パニル)

CASNR	名称	主な用途	SPEED' 98 での取扱い	備考
137-26-8	Thiram=TMTD 詳細検討対象物質	殺菌剤、 忌避剤、 工業用薬 品		登録(チウ ム)
43121-43-3	Triadimefon 詳細検討対象物質	殺菌剤		登録(トリア ジメフン)
1570-64-5	4-chloro-2- methylphenol=4-chloro- -o-cresol 詳細検討対象物質	殺菌剤	*6	生産量不 明
298-00-0	Methylparathion 詳細検討対象物質	殺虫剤	*16	'71 失効
34256-82-1	Acetochlor 詳細検討対象物質	除草剤	*17	生産量不 明
50-28-2 他	Oestradiol 17 beta and its ester-like derivatives			合成・天然 ホルモン
57-83-0	Progesterone			
58-22-0	Testosterone			
2919-66-6	Melengestrol acetate (MGA)			
10161-33-8	Trenbolone			
26538-44-3	Zeranol			

別表 4 EC 報告において「何の規制もなく、法規制の対象としての検討も為されていない9
人工化学物質と3種の合成・天然ホルモン」と SPEED' 98 記載物質との関係

CASNR	名称	主な用途	SPEED' 98 での取扱い	備考
140-66-9	4-tert-octylphenol =1, 1, 3, 3-Tetramethyl-4-butylphenol 毒性に関する分類の検討対象物質	界面活性剤の原料	No. 36 アルキルフェノール (C5-C9)	
120-83-2	2, 4 Dichlorophenol	染料中間体	No. 44 2, 4-ジクロロフェノール	
99-99-0	4-Nitrotoluen	合成中間体	No. 47 4-ニトロトルエン	
1675-54-3	2, 2' -bis(4-(2, 3-epoxy propoxy)phenyl)propane =2, 2' -[1-methyl ethylidene]bis(4, 1-phenyleneoxymethylene)] bisoxirane =Diglycidyl ether of Bisphenol A	樹脂添加剤 Chemfinder	*1No. 37 ビスフェノール A の関連物質	
No CAS 046	2, 2' , 4, 4' -Tetra brominated diphenyl ether =2, 2' , 4, 4' -tetraBDE 臭素化難燃剤 毒性に関する分類の検討対象物質	工業副産物	*2	
75-15-0	Carbon disulphide =二硫化炭素	人絹、殺虫剤、医薬品、溶剤他	*3	36, 551t (' 99)
108-46-3	Resorcinol	医薬品、接着剤、染料、防腐剤他	*4	163. 05t (' 99)
90-43-7	o-phenylphenol	合成樹脂原料、殺菌剤、防腐剤他	*5	輸入品、生産量不明
59-50-7	4-chloro-3-methylphenol =4-chloro-m-cresol	防腐剤・殺菌剤 Merck	*6	生産量不明
53-16-7	oestrone			合成・天然ホルモン
57-63-6	ethinyl oestradiol			
57-91-0, 50-28-2	oestradiol α , β は不明			

5. SCOPE/ICSU 及び IUPAC

5. 1. 対応方針の策定

○国際学術連合評議会環境問題化学委員会(SCOPE/ICSU)と国際純正応用化学連合(IUPAC)は、共同して「内分泌活性物質の環境に対する影響：その科学の現状と将来の課題」プロジェクトを発足した。(本プロジェクトは平成12年(2000)4月のSCOPE執行委員総会で採択され、平成12年(2000)6月のIUPAC化学と環境部会で承認された。平成15年(2003)3月末の完了を見込んでいる。)

○本プロジェクトは、内分泌攪乱問題に関する最新の膨大な科学的知見を厳密に評価し、包括的な現状把握と対処法を提案するため、下記の4つのトピックについて進められている。ただし、解決が見込める問題のみを扱い、数理モデルを用いるような研究には協力するが、実際の実験室及び野外研究は行わない。また、プロジェクトに参画する科学者の自由意志による寄与に期待し、国際的、非政府的、学際的な活動として推進し、地球環境問題にかかわる政策的な意義を提言する。

①核内レセプター作用の分子的機構：内分泌活性物質の作用理解の基礎。

②内分泌活性物質の環境における挙動と代謝。

③内分泌活性物質の実験動物、ヒトに対する作用及びヒトのリスクアセスメントへの利用。

④野生生物種における内分泌活性物質の影響。

○本プロジェクトの一環として、平成14年(2002)11月17～21日に、SCOPE/IUPAC主催による国際シンポジウムとワークショップが横浜で開催された。(シンポジウムとワークショップの成果を踏まえ、平成15年(2003)3月末のプロジェクト終了後、約800ページの最終報告書が *Pure and Applied Chemistry* に出版公表される予定で、平成15年(2003)末四半期ごろに公表すべく準備が進められている。また、専門外の方のための短縮版も別に公表される予定である。)